

特別講演

座長：堀江 重郎（順天堂大学）

漢方医学 e ラーニング（臨床応用編）の すすめ ～腎泌尿器疾患～

聖マリアンナ医科大学

新井 信

神奈川県内の4大学医学部（東海大学、北里大学、聖マリアンナ医科大学、横浜市立大学）で組織する「神奈川県4大学医学部FDフォーラム」では、Web上に「漢方医学eラーニングコース（基礎編・臨床応用編）」を公開している。本講演では、臨床応用編から「腎泌尿器疾患」を紹介する。

腎泌尿器疾患は漢方で言う五臓の一つである「腎」と深く関連している。腎は、成長・発育・生殖能のコントロール、骨や歯牙の形成と維持、泌尿器機能と水分代謝の調節、呼吸能の維持、思考力・判断力・集中力の維持などの作用を持つとされる。この腎の機能が失調した「腎虚」と言われる病態では、排尿異常や性機能異常などの泌尿器科領域の症状ほか、腰痛や下半身の衰えなどの加齢に伴うさまざまな症状を呈する。さらに、漢方独特の腹診所見として、下腹部に局限して弾力が低下した「小腹不仁」や下腹部正中の深い部分に細い索状物を触れる「臍下正中芯」が特徴的である。

排尿異常に用いる漢方薬として、夜間頻尿などの腎虚の症候パターンが明らかであれば八味地黄丸が第一選択薬となる。また、日中の頻尿、胃腸虚弱、冷え、神経質などの症状があれば清心蓮子飲、膀胱炎の急性期にみられる排尿痛や血尿には猪苓湯、繰り返す膀胱炎には猪苓湯合四物湯、外陰部の熱感や尿混濁などの炎症所見が強ければ竜胆瀉肝湯を用いる。

尿失禁は西洋医学的に、腹圧性、切迫性、溢流性に分類される。腹圧性尿失禁は保持力が低下した骨盤底筋群を引き上げるという意味合いで補中益気湯を第一選択薬とし、切迫性尿失禁と溢流性尿失禁は腎虚と捉えて八味地黄丸を用いることが多い。

夜尿症に対しては、漢方医学の立場からいくつかのタイプに分類して考えるとよい。体質が虚弱で冷えやすく、尿が薄く、1回の量が多く、腹痛があり、尿が近い虚弱児タイプには小建中湯、神経質でストレスがかかっているような神経質タイプには柴胡桂枝湯、とても元気で夜は熟睡し、目が覚めずに漏らしてしまう熟眠タイプには麻黄湯、暑がりや咽が渇き、水をよく飲み、尿量も多い子供が、ねぼけて漏らすような口渴多飲タイプには白虎加人参湯を選択する。

性機能異常に用いる漢方薬として、年齢不相応な身体機能低下を伴う場合、腎虚を目標に広く応用できるのが八味地黄丸である。気力や体力の低下が明らかであれば補中益気湯を用いてそれらを補い、心因性要素が強い場合には、頑健な体格で精力旺盛に見えても実際には陰痿などに悩む人には大柴胡湯、虚弱な体格で遺精や早漏、性欲減退などがある人には桂枝加竜骨牡蛎湯が適している。

漢方医学eラーニングコースへは、下記のURLから登録すれば誰でも無料でアクセスできる。

<http://kampo-edu.med.u-tokai.ac.jp/moodle/>